

福祉とやま

ふれあいネットワーク (福)富山県社会福祉協議会広報誌

2023

3月号

No.468

March



「富山県ろうあ者大会」での活動の様子

目次

CONTENTS

特集 P2~4 コロナ禍における特例貸付からみえた福祉・生活課題とこれからの社会福祉協議会の役割を考える

情報フラッシュ

県健康・福祉人材センターから P5

知つておきたい福祉情報 社会福祉施設経営相談室から

あかいはねトピックス P6

我が社会福祉法人の地域における公益的な取組

戦略的なPRを学んだ広報講習会

災害時の業務について考える P7

NPO法人の紹介 NPO法人 なんと元気(南砺市)

令和4年度 全社協会長表彰・中央共募会長表彰伝達式 P8

ボランティアグループ紹介

富山市手話サークルとわの会(富山市)

県高齢者総合相談センター閉所のお知らせ P9

いらっしゃいませ!私たちの自慢の一品

社会福祉法人あしつき あしつきふれあいの郷(高岡市)

県社協 県介護実習・普及センターからのお知らせ P10

ねんりんピック愛顔のえひめ2023 参加者募集

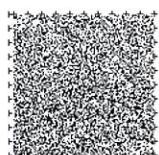
シニアタレント・語り部を派遣します

寄付報告 P11

フリートーク

相談支援事業所アプリコット 相談支援専門員 徳竹 健太郎さん

県社協のおもな動き／編集後記 P12



スマートフォン用アプリ「Uni-Voice」

または「Uni-Voice Blind」を使えば

情報を音声で読み上げると同時に、テキストで表示されます。



この広報誌は共同募金の助成を受けています。

県社協のおもな動き

3月日程 行事名	場所
3(金) 県社協 基金運営委員会	サンシップとやま
日常生活自立支援事業契約締結審査会	サンシップとやま
9(木) ケアネット活動評価検討委員会	サンシップとやま
13(月) 心配ごと相談研修会	富山県民会館
16(木) 福祉サービス苦情解決研修会	オンライン
17(金) 市町村社協新任職員研修	サンシップとやま
23(木) 富山県災害福祉広域支援ネットワーク協議会	富山県民会館
県共募 第301回理事会、第259回評議員会	サンシップとやま
27(月) 福祉人材確保対策会議	富山県民会館
28(火) 県社協 理事会、評議員会	サンシップとやま

4月日程 行事名	場所
27(木) 富山県福祉・介護職員合同入職式2023	富山県民会館
社会福祉推進関係者交歓の集い	富山県民会館



編・集・後・記

生活困窮者に対する支援のあり方について考えさせられた特例貸付。地域の生活課題が浮き彫りとなり、解決への新たな取り組みを始めるきっかけになりました。今後の社協に求められるのは単なる償還対応ではなく、自立支援の強化でしょう。最長10年という長くて遠い償還への道のりを支援していくためにも、支援人材の確保や関係機関との連携など、早急に体制を整えていく必要があると感じます。

本誌に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

- ウェブサイト <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>
- メール info@toyama-shakyo.or.jp



ハーティは富山県のボランティア活動のマスコットマークです。

Free Talk

「ええ人生やったなあ」と 言える様に

相談支援事業所アプリコット
相談支援専門員

徳竹 健太郎さん



20代の頃、楽しい時は笑うし悔しい時は泣いたり怒ったりする、障害があつてもなくても同じだよねでも自分はたくさんの楽しいことがあるのに、障害があるととんでもない制限があるんだ、ということを思い知られました。同じ人間なのにこんなにも生き様が違うって何だろう、こんな世の中おかしい、何とかしたい、と思ったのがきっかけで、福祉の仕事に関わる様になりました。

活動の中で「当たり前を変える、既成概念の変革」「サービスにニーズを合わせるのではなくニーズにサービスを合わせる、なければ工夫したり新たに作る」「人間の中核神経は6歳ごろまでに約9

割形成される」など先人から貴重な学びを得ました。ヘルパーでは面白いことを共有できる、失敗しても笑ってくれる人ではないでしょうか。そんな障害のある方の生き様を知らない人が多いのではないかと思うが、自分が幸せでなければ「外に出ないのですが」という相談、「待つ」という環境を作らなければいい相談支援では「待てないのですが」がいる、どんどん人がつながっていく、人生を2倍以上楽しんでいるなと思いました。相談支援では「待てないのですが」「外に出ないのですが」という相談、「待つ」という環境を作らなければいいし、出すことばかり考えずそこへ集まり出るきっかけにつなげればいい、など発想の転換は大切であり面白いなと思いました。また障害のある方が大人になつた今、お箸を持つ練習?子どもの時にはどうしてたんだろう?と不思議に思つることもありました。

障害があるというだけで清く正しく美しく、失敗しない様に、人や社会に迷惑をかけちゃいけない、と思われているのではないでしょうか。そんな障害のある方の生き様を知らない人が多いのではないかと思うが、自分が幸せでなければ人の幸を考えることはできないし、遊び心を知らないきや楽しさを伝えることはできないのでしょうか。

制限の多い状況ですが、多くの人が出会い、お互いを知り、笑顔になることで、誰もがより幸せな人生を送ることができます。社会になると考えていました。誰もが人生最後に「ええ人生やったなあ」と言える様に。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会は

住民主体の地域福祉の理念に基づき、だれもが安心して暮らすことができる福祉社会の実現をめざし、県内の民生委員・児童委員、福祉施設、福祉従事者、ボランティア等で構成する、公共性と自主性をもつ民間社会福祉組織です。

